

天保八丁酉年

年々有増記

三月吉祥日

松平姓

特別
A5
6590
183



85
6590
183

松平姓庄に良書之

土佐國五基山金色教院竹林寺略縁起

夫當山者文殊大士應現於靈區行基

菩薩草創の勝壤也昔聖武皇帝

詔勅太唐於五基山より文殊菩薩を

海三解脱乃法門を受と見ゆ以敬感斜を

ら奉別行基菩薩に詔して法夢に事を

告本朝におゆ震旦の五基山に似る



靈地あり、彼山に擬り、伽藍を建立す。之
一と云ふ時、行基奏して曰、僧行化
し多遍く諸列をなす、汝も去列長を郡に
奇異れ、事蹟ありて、其かた、重臣の五
基山、小巽あり、五峯をかく、聳て文殊
此頂より五髻、何ふ似、三池、物々湛く、三解
脱の法つを志あり、と云ふ、傳聞む、金

見、夜に涌出せり、故に此山地、震動
揺る、と云ふ、事あり、光景、瑞
不可勝、斗、満、是、文殊大聖の淨土あり、
祇園、六、世地、伽藍を建立、
天皇、敬聞、有、大、感嘆、一、既、行基、
勅、神亀元、甲子年、伽藍を宮、與、
爰、小行基、藥、拵、檀、の、御、救、木、を、
二

えりく。文殊もんじゆれ尊像そんざうを造つくりと誓ちかて。まひ
もやうもやうト見けん
法持念ほふぢねん事こと一七日。満まん時ときあり。明あき
星壇しやうだん上うへ降くだり。化僧けそう忽たち然ぜんと来きく。剎しやく方かた相あ共い
坐像ざざう一いつ軀こを彫てう刻こくし。さらにに降くだり。夏なつの明あき
星しやう像ざう内うち一いつ納おさめ。早はやて。化僧けそう 光ひかりを
放はなち。天あま下くだり。昇あがり。太たい公こう也や。見けん聞もんの諸しよ人にん驚おど嘆たん也や。と
まふとなし。かの像ざうをを相あをを不ふ妙めう相あ端たん嚴げんはし

て人工じんこうの及およぶ靈れい小せうあある。木き浦うらととに生な身みの菩ぼ薩ざつと
まひ川かみへへ。まま行ぎやう基き像ざう木き乃の鉤かぎ杖じやうををまつて。
本堂ほんだう中ちゆう庭ていに柿かき誓ちかていいとく。とと此こゝ山やま佛ぶつ法ぽう
身み隆りゆうをを宣のたまく。枝えだ葉はをを生なまます。とと果はてて一いつ株かぶ
れさ根こんとと化けし。春はるとと根こんをを花はな開ひらけけなな呼よぶ
て根こん根こんといいふ。其その後のち弘こう法ぽう大だい師しの列れつをを巡めぐりまわり。當たう
山さんの五ご峯ほうをを五ご結けつとと配はいし。三さん池ちをを三さん鏡きやうと

三
掘ぎ。又獨ひとり鉗つか杵きねを拗ひ岩裂水涌いんさけいふく名なく獨ひとり
鉗つか水みづといふ捕とら。是こゝを吞のもの諸病しよびやうを治なす
といふといふ。是則これまは大聖だいせい加持かぢ力りき以もつてい也。
大師だいし誓ちかてい任にんしてい瑜伽ゆがを修しゆ。堂宇どううを
補お草くさ。あふ。この中ちゆう真祖まそといふ宗しゆ尔に某なの
國巡禮こくじゆんらいの札しやくとある。六十六部ろくじゅうろくぶの納経なうけいとて
道俗だうじやくあらむをとび二世にせの悉地しつちを祈いのるものを

謹きんて經文きやうもんを案あんする。文殊もんじゆ菩薩ぼさつ三世さんぜ諸佛しよぶつ出し
生しやうれ智母ちぼ十方じふぱう如来にがひ發心はつしんに師しある。諸佛しよぶつの行ぎやう
化けを吞のもの免めん。或あるは菩薩ぼさつの身み。或あるは聲聞せいもん
研けん支佛しぶつれ身み。或あるは種しゆの相貌さうしやうを現げん。一切いっせつ衆しゆ
生しやうを佛道ぶつだうより入いれ。孫そん。執しやく印いん五逆ごぎやく重罪じゆうざいの惡あく
五障ごしやう三従さんじゆうの女人にょにん逆縁ぎやくげんの流生りゆうしやうを利益りやく與人にと授おん
願げんあり。文殊もんじゆ經きやう曰いはく捨離しやり女人にょにん形轉ぎやうてん生しやう智男ちなん身み

得男子身已即成大菩提とくえんしんいそくどくたいと説りとけ。故こに
りゅうじよ八女きやうけの龍女ハ文殊の教化きやうけより女身を轉まじ
むくせうい南方無垢世界ちやうぐくへ行て正覺をとまこれあふ
あつけ法華提婆品たいよばまびくびくのなり。誰これ世尊このそん
 をまんせしむんや

宝物

- 一 八樓たぐいの沙影 言雄の福の四糸等重なる之
後 後身福院所著等
- 一 五部大經 唐一行の著書等
- 一 宝鏡 とび切りし書等
- 一 鉄杖一沙振仏具弘法大師所持
- 一 六字房号 同 沙影
- 一 雜物何多 申ねぬるつらう書等重なる之
をこのまゝく身物形を重なるをぬい入る
- 一 三石氏御守刺札
- 一 義政御守刺札

- 一 蜀江錦の製法
 - 一 舟楫楸絵
 - 一 書字妙典
 - 一 花園布鷹筆
 - 一 新字通筆
 - 一 同字納杖
 - 一 曾教書印漸形ありのり
- 況 揚子家法書あり
 厚 漢大綱を教り筆
 如 多下経書及筆
 酒 舟楫局書後山書あり
 同
 同

文政七甲申年二月

二十年

古文殊号并帳 文政七甲申年二月より
 三月迄晴天三年日誠みりし 娘と交り侍人
 多相せぬものあり
 ○十ヶ年後天保年
 年春弘法大師一千年法忌ありて
 志都末寺にて大会ありて 高木もあらず
 といはれ云ありて 詠ふ

文化十二年五月七日八日九日十日十一日十二日
おんむさしの東風じけちるあし 七日同日
おんむさしの沖風まぬに井戸のぬこるあし
おんむさしの保方づるあし山志をとおんむさしの保
おんむさしの保方づるあし山志をとおんむさしの保
おんむさしの保方づるあし山志をとおんむさしの保
おんむさしの保方づるあし山志をとおんむさしの保
おんむさしの保方づるあし山志をとおんむさしの保

山へ早くと知る又救の中木竹おびしり助も
あり又妻の救なりて大きなるぬのありあはれ
入るはくましくそむいへ大きなる木の根にげ
おびしりあしりあしりあしりあしりあしりあしりあしり
おんむさしの保方づるあし山志をとおんむさしの保
おんむさしの保方づるあし山志をとおんむさしの保
おんむさしの保方づるあし山志をとおんむさしの保
おんむさしの保方づるあし山志をとおんむさしの保
おんむさしの保方づるあし山志をとおんむさしの保
おんむさしの保方づるあし山志をとおんむさしの保

北条康徳但し其知然王の事を其文
昔は其の大なる清波介と云ふるに其年
三年のあたり地志人なるは
うら高徳地別大ぬこむ若山と申す
是より後に其より市連ふ及ふ時申す
化年ハ其ぬれにせし後に二又の
似てくハ其年

以時 口口 口口 口口 口口
口口 口口 口口 口口 口口
口口 口口 口口 口口 口口

松平姓は以り其後其後其後其後其後其後
其後其後其後其後其後其後其後其後其後其後
其後其後其後其後其後其後其後其後其後其後其後

以年 以月 以日 以時 以分 以秒
其後其後其後其後其後其後其後其後其後其後其後
其後其後其後其後其後其後其後其後其後其後其後

文正元年 嘉祥元年 嘉祥元年 嘉祥元年 嘉祥元年
是より年号として保元元年と改め

天保三元 嘉祥元年 六月 嘉祥元年 八月 嘉祥元年 十月 嘉祥元年
七月 嘉祥元年 八月 嘉祥元年 九月 嘉祥元年 十月 嘉祥元年 十一月 嘉祥元年 十二月 嘉祥元年

世方其用に入八月三日と雨あり七月廿二日
三日山風あり吹まらぬ物也此大上り米石
石と麦石を成り敷つてくわわし古なりはあ
大上りるも米石はくはぬきなる山物也此
たみ砂知大上り米石也石石石石石石
里及口あるもみりる——中那中那——
八月廿二日あり——大上り米石を枯刈入
くどる八月廿二日あり——中那中那——
む重箱のりて見る——高上り米石のり何の
うり米石のりてみる——高上り米石のり何の
て候ひしりる

天保元年八月廿二日大上り米石を枯刈入
素下入素下とておそ箱を枯る候ふは
高上り米石のりてみる——高上り米石のり何の
くどる八月廿二日あり——中那中那——
里及口あるもみりる——中那中那——

春新之に中下以年人。二三月と志のたを
お人想をのぬま新にともりおこと。その
み新の一方を人申新は行去後には
妻よゆて新のしりる^{まのたを}中下位
兼八秋を再年る後にはくが十の法と
る方をもふ之後と位上日申はるる新の
に後と位上もしてする後と而の三日あ
る方後とと位がわきと妻九後ととらう

ること又二三月とお福大とをさる三日
神句より年よりけ申句るを後と日と
るの後とと成二三月の位を妻を新と位を
中申妻を新と位をて妻を新と
三月元日つちのとい月とつちのつちのとい
五月より九月といひのといひのといひ
三月より妻を新と位を弟を新と位を
二月より新と位を日をおち妻ははは
新妻を新と位を弟を新と位を

右同年二月十九日大坂にてゝ方大監東公
同於其時物に即し人の人々よし大坂市
所跡代官たるを初諸部大官を以て忠を打ち
大坂形を懐もくし何人可去千後志人
り情知れど清る物なぬはさる江戸次第に
立大坂を去る所りありし人 有人救済如後
大坂の日後自程後大坂所焼く事の跡も中々
小捕人トリツラを捕らんと其所の民も人出を志す

我々下へも忠を仕込し 救済人救済如後
切後返し忠を上げし小忠つり忠をなす
其忠がれも中けやけ忠も受けしつる
忠がれ信するあよ成とす ○此の千金大坂
お船の人の吐く忠を來山所又相中の方より
は後とあると云ふ是は定説より又さるに
忠物と云ふは河原のまこときう来たる事
甲浦中野ありしと云ふ所の種も人仲絶く多
事都 忠を信する人 忠を信する人 忠を信する人

松平七之丞

孫

同市之丞

孫

同市如

孫

女子人等年々也孫正妻孫幼先後三云云

一妻の事

一妻の事

一妻の事

孫

〇日庄屋の事子三物孝子仲八孫庄平孫孫孫

松平市如

孫

同庄屋

孫

同市之丞

孫

妻の事

妻の事

妻の事

孫

妻の事

妻の事

孫

孫

孫

松平市如

孫

孫

同為平

孫

妻の事

孫

孫

孫

外姓

一 濱口春之丞 長徳村住人 元孫

妻の事

一 濱口市如

妻の事

孫

乃其^一人^一り^一る^一移^一と^一位^一言^一なり^一は^一也^一
 之^一言^一り^一に^一向^一ふ^一る^一所^一を^一て^一行^一は^一し^一と^一を^一三^一月^一
 以^一て^一留^一る^一に^一お^一し^一て^一は^一も^一去^一米^一を^一ち^一お^一し^一て^一
 之^一所^一と^一は^一上^一言^一り^一に^一お^一し^一て^一は^一也^一
 乃^一お^一し^一て^一秋^一年^一を^一て^一お^一し^一て^一は^一也^一
 年^一一^一高^一と^一し^一て^一村^一も^一そ^一ろ^一に^一は^一り^一
 雨^一乃^一一^一日^一和^一と^一し^一て^一三^一月^一也^一
 年^一一^一物^一種^一も^一豊^一と^一し^一て^一也^一
 毎^一年^一五^一斗^一を^一て^一穀^一物^一も^一亦^一五^一斗^一也^一
 乃^一其^一言^一り^一に^一向^一ふ^一る^一所^一を^一て^一行^一は^一し^一と^一を^一三^一月^一
 以^一て^一留^一る^一に^一お^一し^一て^一は^一也^一
 乃^一お^一し^一て^一秋^一年^一を^一て^一お^一し^一て^一は^一也^一
 年^一一^一高^一と^一し^一て^一村^一も^一そ^一ろ^一に^一は^一り^一
 雨^一乃^一一^一日^一和^一と^一し^一て^一三^一月^一也^一
 年^一一^一物^一種^一も^一豊^一と^一し^一て^一也^一
 毎^一年^一五^一斗^一を^一て^一穀^一物^一も^一亦^一五^一斗^一也^一

乃其^一言^一り^一に^一向^一ふ^一る^一所^一を^一て^一行^一は^一し^一と^一を^一三^一月^一
 以^一て^一留^一る^一に^一お^一し^一て^一は^一也^一
 乃^一お^一し^一て^一秋^一年^一を^一て^一お^一し^一て^一は^一也^一
 年^一一^一高^一と^一し^一て^一村^一も^一そ^一ろ^一に^一は^一り^一
 雨^一乃^一一^一日^一和^一と^一し^一て^一三^一月^一也^一
 年^一一^一物^一種^一も^一豊^一と^一し^一て^一也^一
 毎^一年^一五^一斗^一を^一て^一穀^一物^一も^一亦^一五^一斗^一也^一
 乃^一其^一言^一り^一に^一向^一ふ^一る^一所^一を^一て^一行^一は^一し^一と^一を^一三^一月^一
 以^一て^一留^一る^一に^一お^一し^一て^一は^一也^一
 乃^一お^一し^一て^一秋^一年^一を^一て^一お^一し^一て^一は^一也^一
 年^一一^一高^一と^一し^一て^一村^一も^一そ^一ろ^一に^一は^一り^一
 雨^一乃^一一^一日^一和^一と^一し^一て^一三^一月^一也^一
 年^一一^一物^一種^一も^一豊^一と^一し^一て^一也^一
 毎^一年^一五^一斗^一を^一て^一穀^一物^一も^一亦^一五^一斗^一也^一

天保十巳卯春弟尾成等と大なる白の
妻の心宿来而此心他も事しむ
天下一流は改格法京直下と云ふれ亦
竹の節は早多事成 二月朔向ふ西事
よ何なり三の早の下に白雲布川たす
毎夜有りの中ふ三の早めはけを相更
て西に相かひ心く下は後い出天は時人
豊年板下モ濃柱上モ寒程下モ云む月
そく風あり

カイトヨ

豊公様御入國在程小更

慶長六年正月二日甲浦に浦長同八日
浦戸へ浦入城○今年 赤水元年四月に
長原を渡す 元親公は百五拾年出立あり
法氏系信三のるを利

御代之御法名御命日

御命日

一豊公 大通院殿心峯宗傳大居士

厚長十九年

忠義公 竹生殿院殿龍雲公大居士

九月廿五日
實永四年

忠豊公 法昌院殿淋木山宗黄大居士

實文九年

豊昌公 西復載院殿含弘固徳大居士

八月廿五日
六福十三庚辰年

豊房公 天暉院殿侯山恭推大居士

實山三年
六月七日

豊隆公 龍山院殿靜玉鏡心大居士

享保五年
四月廿五日

豊常公 旭光院殿天兵良英大居士

享保十三年
九月二日

豊敦公 大昌院殿天徳兼真大居士

以和元年
實土月十九日

豊庭公 清徳院殿融照大居士

實文元年
八月廿四日

豊貞公 寛邦院殿泰運源心大居士

實文元年
三月十九日

豊策公 泰嶺院殿嵯山顯瑞大居士

文政八年
八月三日

寺大殿様御法名御命日

弘化元年辰の酉と年号改り因て日蓮
 在の甲辰也——麦苗を成りたる今
 第一——第六百——三縣ありて止まらず
 九種として小麦九種ありてりやとて
 九百百種と種綿の實の成りたる下
 一とて千と千と末の——伝徳の
 ありて一方地とん善きも各様あり
 一とて千と千と末の——伝徳の
 ありて一方地とん善きも各様あり
 一とて千と千と末の——伝徳の

赤松水年成申年一喜化熟くはるの
の石帯し喜雨ぬり一及雨ぬり日相々くは
六くも字も晴て雨す一七月廿三日は雨あり
む山も雨あり一福作下後一其あるがし
ぬいこくあり一喜年百三移一六七月廿日
七月廿日一八日中甸もるも移一喜年
移年百移かき一喜年百移一七廿一日
移七八八日一喜年百移一七廿一日
移ハ移ぬれ一喜年百移一七廿一日

赤松水の年成申年一喜化熟くはるの
七月廿一日一八日中甸もるも移一喜年
移年百移かき一喜年百移一七廿一日
移七八八日一喜年百移一七廿一日
移ハ移ぬれ一喜年百移一七廿一日

七百五入は凡格前入をむ仲代はよを格の
百千とて其前千より一 略しよとて
其より一 米百三粒と恒稻米百粒をさく
去る百三粒は力と小豆は山古豆百粒を茶
茶永六考其正月元日の一年二百両あり
三二兩あり三月月中旬迄雨候は春雨
十分は後つゞき一 春より 春米百粒後
稻米百粒をよを述 麦百粒と粟少あり
九粒あり 恒小豆百粒あり 粟を成る以上

麦作八九合一年 彩麦七粒あり
五月梅雨正月十三日の雨少くして後雨し
たかの日おぬえより六月月中旬より一 夕立
とて一 七月日より 雨少く八月
雨少くあり上地山田に丁せんありりの不
の格あり一 高村稻作の合後
八月十八日入 稻米百粒ありより一 恒米を
九月中旬百三粒あり 粟を二粒あり 小豆を
一 百粒あり 恒米百粒あり 恒米百粒あり 恒米百粒あり

より百位移中位情多能中らぬし一舟
山橋作し一舟より山かすし一舟市人
山少山もむ田色をぬし一橋作大いりみし
舟死より下中船江島下橋は九九の事
は夏江に浦加えにアりのカの大船二艘
小船二艘舟の交易し船をすし一舟
今九月より舟をすし一舟をすし一舟
大々名武能の所用事とありて一舟

まじり今宮千去公船力よりして一舟
船人はたむかひは登堂島村にて一舟
十市村村新船屋を卯傳るる事あり
ぬアりのカも大に儀より伝振舞答名並ぶ
ありて上佐物をしを海帆とありて一舟
江に舟もあはれし舟もあはれし舟も
一舟を舟作し一舟を舟作し一舟
七八と位一舟と相西一舟も一舟

梅雨 中雨少く六月十日頃より雨あり晴を
梯より大なる雨に降る式に耐えたり
六月十日廿六日入り初る一多くの雨に降
多雨降る六月末百粒式に位大夏せし
少く下六月末百粒式に位大夏せし
百粒式に位大夏せし
百粒式に位大夏せし
七月三日頃より日本に降る雨あり少く白雨あり十六日あり
土雨中に風二日吹きたり六月廿一日頃より廿六日まで

田草大夏に降る右果船に似し雨坑、水は
表と水と交りし是にあんる雨、七月四日の約
四月頃、地を震せし相違ふ、五月廿七日頃、思ひま
大地を震りて法人等々、教へ入行度とせし大
ゆりたを始の事な、小中を、毎、毎粒少く、のり、ハ
止、大、降、中、分、の、ゆ、り、和、の、え、り、よ、う、大、方、日
日のゆりた、の、り、降、る、の、大、降、の、如、く、降、る、ゆ、り、た
も、り、ゆ、り、た、も、有、首、室、水、の、地、を、震、津、浪
より、百、粒、式、年、程、四、半、年、と、考、え、其、の、大、夏、
近、室、水、より、百、粒、式、年、及、七、年、号、降、り、て、今
嘉、永、七、年、号、降、り、安、政、元、年、上、成、り

年代記畧

大化元年（645年）

白雉元年（658年）

天智元年（662年）

朱鳥元年（688年）

文武元年（697年）

慶雲元年（704年）

天武元年（697年）

神龜元年（720年）

天智元年（697年）

神護元年（717年）

天寶元年（742年）

延暦元年（748年）

同平二年（748年）

大同元年（710年）

天長元年（728年）

嘉祥元年（728年）

天寶元年（742年）

貞觀元年（627年）

仁和元年（748年）

昌泰元年（728年）

延長元年（728年）

天慶元年（717年）

天德元年（717年）

康保元年（728年）

天祿元年（728年）

貞元元年（795年）

永觀元年（728年）

永延元年（728年）

五曆元年（728年）

長保元年（728年）

長和元年（728年）

治安元年（728年）

萬壽元年（728年）

長文元年（728年）

永承元年（728年）

康平元年（728年）

延文元年（728年）

長治元年（728年）

應德元年（728年）

嘉祥元年（728年）

康和元年（728年）

長和元年（728年）

天仁元年（728年）

永久元年（728年）

保安元年（728年）

大治元年（728年）

長承元年（728年）

永治元年（728年）

仁平元年（728年）

保元元年（728年）

永曆元年（728年）

長寬元年（728年）

嘉應元年（728年）

安元元年（728年）

長和元年（728年）

元應元年（728年）

建久元年（728年）

建仁元年（728年）

建永元年（728年）

建曆元年（728年）

長久元年（728年）

元仁元年（728年）

寬喜元年（728年）

二年

二年

二年

二年

二年

二年

二年

二年

二年

二年

二年

二年

文曆 ○ 嘉禎 三年
曆仁 ○ 仁治 三年
寬元 ○ 室治 四年
建長 ○ 康元 七年

正嘉 二年 ○ 正元 三年
弘長 ○ 文永 三年
建治 ○ 弘安 三年
正應 ○ 永仁 二年

正安 ○ 乾元 三年
德治 ○ 延慶 二年
應長 ○ 文保 二年
元應 ○ 元亨 三年

正中 ○ 嘉曆 二年
元德 ○ 元弘 二年
建武 ○ 延元 二年
曆應 ○ 康永 四年

貞和 ○ 觀應 二年
文和 ○ 延文 四年
康安 ○ 應安 七年
永和 ○ 康曆 四年

永德 ○ 至德 二年
嘉慶 ○ 康應 二年
應永 ○ 正長 四年
嘉吉 ○ 文安 三年

室德 ○ 享德 二年
康平 ○ 長祿 二年
寬正 ○ 文正 二年
文明 ○ 長享 十年

延德 ○ 明應 三年
文龜 ○ 永正 三年
大永 ○ 享祿 七年
天文 ○ 四年

弘治 ○ 永祿 三年
元龜 ○ 天正 三年
文祿 ○ 秀次自害 四年
慶長 ○ 三年

元和 ○ 寬永 九年
延室 ○ 二年
正保 ○ 慶安 四年
崇應 ○ 明曆 三年

萬治 ○ 寬文 三年
延室 ○ 二年
天和 ○ 貞保 三年
元祿 ○ 十五年

室永 ○ 正德 五年
享字深 ○ 九年
元文 ○ 元年
寬保 ○ 延享 三年

寬延 ○ 室曆 三年
明和 ○ 安永 八年
天明 ○ 七年
寬政 ○ 三年

文化 ○ 文政 五年
天保 ○ 三年
弘化 ○ 元乙巳年 三年
嘉永 ○ 元戊申年 三年

喜永 ○ 乙酉年 三年
上同 庚戌 三年
上同 辛亥 四年
上同 壬子 五年

上同 癸丑 五年
大化元年 乙未
今上皇 神武天皇
神武天皇 孝德天皇

神武天皇 孝德天皇
大化元年 乙未
今上皇 神武天皇
神武天皇 孝德天皇

嘉永七 甲寅、京秋、
大坂、
六月、
大坂、
六月、

安政四丁巳年
豊年也、米穀下直

若延二かもの西
米言金、
米言金、

元治二まのとの
米四、
米四、

安政元 甲寅、没曆
上、
下、

上同 戊午年
米言高、
大坂、

文久二つちの西
米言高、
米言高、

慶應二
米言高、
米言高、

安政二乙卯年
大坂、
大坂、

上同 丙午年 未
春、
春、

~~文久三~~
~~米言高~~
~~米言高~~

口二
米言高、
米言高、

安政三丙辰年
豊年也

上同 辰申 春
米言高、
米言高、

上同 辰子
米言高、
米言高、

新所法舎所

右宮、土月廿日大變、御城下山所、家

新所法舎所、新所法舎所、新所法舎所

枝木所、菓、柳、榮、運、橋、徳、人、所、上、キ、八、所、道

橋、下、危、丁、小、西、早、蓮、池、所、山、田、所、新、所、新、所、新

山、田、所、新、所、新、所、新、所、新、所、新、所、新、所、新

寺、山、道、力、助、了、死、生、了、人、百、株、奈、人

下、所、と、八、透、下、下、地、草、橋、言、以、橋、見、色、道、八

流、入、て、家、ハ、新、つ、つ、と、并、教、家、新、め、つ、つ、と

藤原氏所々々金陵院焼失弟叔水換を
之穀不知物川尾を源切戸より浪入て稗
多の源捨取東流先を家源先を源及田切
庄屋海別者八尾及橋田中浪先が家
流未て居れを浪江の城ハ幅宮の事より
端十近來て止れ田村世尾山流大ふたをよ
三宮より様ハ少もふみか——書長立名
室尾のふ上知とと大道うらとと家藏納屋
拾取汁器のそ外りてふみ物な

安政三辰甚道も堂秋がとははとゆり
休おハ家、秋も吉米の而とおと下麦の
辰の妻作すふりり、新妻と移と位宮の
上方米下直の原をとりて下ふかを
三後と下下り而も位小豆も同振四月
月大く、雨り初すれと六月八と雨
口初るる土用中雨を——七月少く
多穀豊熟居玉内下流去れ米百
麦の自減七所びとと大豆百り

母改四こよ日麦作雨ふいふみ麦立物とあり
七八粒と稲化より一而粒中し一う而たると米
お侍年る迄午午是は清き言ふなり三
四月月少並米而五粒とより七八と迄一戸の
入少一而お侍秋麦之粒中しより七粒と
八粒と公之午、六月迄年^下粟粒八と位は
小豆之粒と公より一七粒と而たると迄一五粒と位
そりお侍より一而粒中し一位は^下展も少りて有

午のまき米而は粒中し一五粒と位は^下麦
口和なりとてお米吉五粒と位は^下粒中
百之粒と位は^下粒中し一五粒と位は^下粒中
小豆之而は粒中し一五粒と位は^下粒中
米教高直しとてお米吉五粒と位は^下粒中
上濃なりとてお米吉五粒と位は^下粒中
三月種古粒と上りる粒中し一五粒と位は^下粒中
より成るる而は粒中し一五粒と位は^下粒中

此等お抄りて四月六日辰にて七月
卯のりりやてと其ぬ子稲米山而く位
候りたりるせんおい麦作十ふちあれも
言真しとて彩の麦もる足中より土用丁
迄してるちお心下ぬ十二月より大日おつぎ
交三年下戊二下とて白き中二下とてぬ
ともちうつうつおとぬとて麦元知事
何しとては名米ちやちやぬ麦ちやぬ位
大足るぬ千とくお足るぬお心文久二年戊辰
おとと希るぬ千とく位麦ちやぬとくちやぬぬお心
おととちやぬぬお心十二月は分りり後後治古お心

がり治山と通用と修りち白りりり
まあお心四子ちやちやりお心お心お心お心お心
は名大ちやちやちやりちやちやちやちやり
同三年一三年一ちやちやぬお心お心お心
大足ちやちや位小足るぬお心同三月辰は日辰
四月より米ちやちやぬお心お心お心お心
末方金お心お心お心お心お心お心
お心お心お心お心お心お心お心お心
お心お心お心お心お心お心お心お心

去外度日檢下下一車七下下
生酒を合煮六下一燒酎を九煮下
右酒を合煮五下一燒酎を九煮下
下一燒酎を九煮下
百七、和月素麩を合煮六
七、和月素麩を合煮六
七、和月素麩を合煮六
皮を合煮八下一燒酎を九煮下

旋草 中分 百目有抄ありて付本
を抄煮式又の之を合煮下下
去外度日檢下下一車七下下
生酒を合煮六下一燒酎を九煮下
右酒を合煮五下一燒酎を九煮下
下一燒酎を九煮下
百七、和月素麩を合煮六
七、和月素麩を合煮六
七、和月素麩を合煮六
皮を合煮八下一燒酎を九煮下

程... 位... 十... 月... 增... 采... 穀... 法... 九...
... 位... 十... 月... 增... 采... 穀... 法... 九...
... 位... 十... 月... 增... 采... 穀... 法... 九...
... 位... 十... 月... 增... 采... 穀... 法... 九...
... 位... 十... 月... 增... 采... 穀... 法... 九...

正月... 增... 采... 穀... 法... 九...
... 位... 十... 月... 增... 采... 穀... 法... 九...
... 位... 十... 月... 增... 采... 穀... 法... 九...
... 位... 十... 月... 增... 采... 穀... 法... 九...
... 位... 十... 月... 增... 采... 穀... 法... 九...

位におおはるは先 新妻大妻年一也
退く下真と名ふ五月卯旬に九百なり
節に位より 七月卯旬に九百なり
言ふお上は位お上と云ふ 十の位
も中りにこそ 不極と名ふ 位職人
銀も少く あり 名お上と云ふ 亦八百
買しと云ふ 五月卯旬に九百なり
少く 砂新八五月卯旬に九百なり
並に 白方と名ふ 五月卯旬に九百なり

言ひ下り 位と名ふ 又 反西店位
先人位と名ふ 五月卯旬に九百なり
言ひ下り 五月卯旬に九百なり
五月卯旬に九百なり
七月卯旬に九百なり
八月卯旬に九百なり
九月卯旬に九百なり
十月卯旬に九百なり
十一月卯旬に九百なり
十二月卯旬に九百なり

以下 妻子女を以下 切手正年八百五十九以下
三月九日 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
打 福吉如 百姓大連 妻子女を以下 妻子女を以下
此別 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
お成 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
新 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
音 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
八又 お成日 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下

上方 抄り 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
京都 大義 將軍 方 妻子女を以下 妻子女を以下
三月 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
松山 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
片 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
四月 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
五月 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
六月 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
七月 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
八月 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
九月 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
十月 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
十一月 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下
十二月 妻子女を以下 妻子女を以下 妻子女を以下

金皇太后元年庚子正月庚申卒年八十四
地皇元年庚子正月庚申卒年八十四
女御 文皇元年庚子正月庚申卒年八十四
皇太子 文皇元年庚子正月庚申卒年八十四
皇太子 文皇元年庚子正月庚申卒年八十四
皇太子 文皇元年庚子正月庚申卒年八十四
皇太子 文皇元年庚子正月庚申卒年八十四
皇太子 文皇元年庚子正月庚申卒年八十四
皇太子 文皇元年庚子正月庚申卒年八十四
皇太子 文皇元年庚子正月庚申卒年八十四

高年長男
司老部

長男 松太郎
長女 松太郎

- 長女 滝早逝
- 長男 松太郎
- 次男 馬太郎 日露戦役後、東北に戦死、時三才
- 三男 庄次郎 早逝
- 二女 八重 大津村大浦中沢悦兵衛男
- 浪谷 孝下丸

長太郎

長太郎 大津村中沢悦兵衛男

- 長女 松徳 大津村麻田山北林、孝下丸
- 二女 千代 福生村折松岡栄耕、孝下丸
- 長男 盛樹 三才、三郎死後
- 二女 登志 得
- 濱野 貞利

分家外伴之郎 長男庄方
長女延早遊
長男庄方
長女延早遊
長男庄方
長女延早遊

外竹文

月夜樓

前漢村翁 長男庄方
長男福吉 二男庄方
長女十重 二女梅松
長男庄方 長女十重
長男庄方 長女十重

中次悦者

長男 鶴岡
長女 三子
長男 庄方
長女 十重
長男 庄方
長女 十重

千本長岡村野地久保田全一書上

乙分家

長男 庄方
長女 十重
長男 庄方
長女 十重
長男 庄方
長女 十重

長次

長男 庄方
長女 十重
長男 庄方
長女 十重
長男 庄方
長女 十重

重吉所記

芳花

子長

長源花

長源花

長源花

注 源孫ハ此江以長源朝往ク企テタルモ其意 疑レ

一時 吾島村ニ出百姓セシカ大正十三年次長同村

字西山ニ松住セリ

